

NEWSLETTER



大阪女学院大学 大阪女学院短期大学

教 員 養 成 セ ン タ ー

● 巻頭エッセイ 「新しいライフスタイル?・・・放送大学とともに」…… 1	● 教職フィールドワーク (韓国)…………… 3
● 教職勉強会 …………… 1	● 授業の玉手箱「ホンモノの語り部」が見せる「ホンモノ」…………… 4
● 2017年度 教員免許状更新講習 …………… 2～3	● 書籍紹介「今日すべきことを精一杯!」…………… 4
● 教育実習実施報告 …………… 3	● 教員養成センターの教育活動 ● 編集後記…………… 4

巻頭エッセイ

新しいライフスタイル?・・・放送大学とともに

森 均

10 数年前のことである。大阪府教育委員会事務局に勤務していた頃、大阪府立特別支援学校教員の特別支援学校教諭免許状の取得率は 50% 以下だった。また、大阪府立特別支援学校で生じる体罰事件は特別支援学校教諭免許状を持たない高校から転勤してきた教員が自分を抑えきれずに起こしていた。そこで 10 年間で特別支援学校教諭免許状取得率を 80% にアップする計画を立てた。その中心が放送大学で免許状を取得することであった。

放送大学で特別支援学校教諭免許状が取得できる案内パンフレットを全校に配布し校長会、教頭会でも呼びかけた。それだけでなく自らも放送大学で学び特別支援学校教諭免許状を取得した。その後、校長となり放送大学大学院で 3 科目 6 単位を取得した。校長になると誰も何も教えてくれなくなったからである。

単位認定試験は大阪教育大学天王寺キャンパス内にある放送大学大阪学習センターで行われた。そこで大阪教育大学夜間大学院実践学校教育専攻の学生募集ポスターを見たのである。大阪教育大学に問い合わせると「他大学院で修得した単位は審査の上 10 単位まで認められる。放送大学大学院も該当する」とのことであった。それでも迷った。もう 50 歳を越えて今更学生? と。しかし校長として未熟さを感じていた私は受験を決めた。入学すると私より年上の校長が 2 人もいたのである。そのことはさておき、3 科目 6 単位は審査の結果単位認定され、毎晩通う必要がなくなり

他の学生より余裕をもって通学できたのである。そして夜間大学院での学びは、論文のテーマの決め方、研究手法、論文の書き方だけでなく人的ネットワークも得てその後の人生に大きな影響を及ぼした。

最近では、週に 1、2 度であるが夕食前後に衛星放送で放送大学の講義を視聴している。すると校長時代になぜあれほど急激な変化があったのか、文章には起承転結を明らかにしないほうがいい場合がある等知るのである。もちろん無料である。放送大学の HP には番組表もアップされているので一度ご覧いただきたい。放送大学に科目履修生として入学すれば、講義がインターネット配信されているのでいつでも視聴することができるようになっている。

かつては「働きながら学ぶ」だったが、現在は「働いた後に自宅で学ぶ」ではないだろうか。もしかしらば変化の激しい時代に生きる私たちの新しいライフスタイルなのかもしれない。

注) 10 数年前、特別支援学校は盲学校・聾学校・養護学校と分かれておりそれぞれ別の学校種であった。免許状も特別支援学校教諭免許状ではなく盲・聾・養護別であったが、混乱を避けるため特別支援学校という表記を用いた。なお、大阪府においては、障害のある幼児・児童・生徒が特別な存在ではないとの認識のもと特別支援学校を支援学校としている。

教 職 勉 強 会

東條 加寿子

今年度から新たに「教職勉強会」を立ち上げた。勉強会は、教職課程履修生や教職に関心を持つ学生を対象とし、学年間の交流を図りながら教員免許状取得という共通の目的に向けて様々な議論を深めることを目指している。今年度は 2 回の勉強会を開催した。

第 1 回 2017年7月1日(土)13:00~14:30 (参加者28人)
テーマ:教育実習

第 2 回 2017年12月2日(土)13:20~14:50 (参加者25人)
テーマ:介護実習、教員採用試験 等

第 1 回目の勉強会では、6 月に教育実習を終えたばかりの短大教職課程履修生 2 名と大学教職課程履修生 3 名がそれぞれの実習校での 3 週間を振り返り、苦労したこと、工夫したことなどについてスライドを使ってプレゼンテーションをした。授業、学級運営、学校行事、指導して下さる先生や担当クラスの生徒との関わりなど、教育実習は試行錯誤の連



続であるが、実習生たちは同様に忘れられない感動の実習最終日を経験したようだ。実習ではしっかりした英語力が求められたことは言うまでもない。

第 2 回目の勉強会では、3 年生による介護実習報告、4 年生による教員採用試験合格体験記の発表があった。そのほかに、夏に実施した「教職フィールドワーク(韓国)」の成果報告と小学校で「教育インターンシップ」に従事している 4 年生からの発表もあった。特別支援学級や介護施設での実習が何故教職課程で求められるのかの話し合いや、生徒の 4 割近くが日本語を母語としない小学校での授業補助活動の発表は、多様化する教職の現場で教員として今何が求められているのかに気づくよい機会となった。

教員免許状を取得するためには、通常の科目履修とは異なる取り組みが必要で、教職課程履修生には期待感とともにさまざまな不安がある。先輩として経験を語ったり、お互いに目指すべきキャリアについて話し合い、共に教員免許状取得という大きなゴールを目指していきたい。